

明治学院大学社会学部附属研究所主催  
2023年度第1回地域創り担い手学習会 開催報告

2023.7

明治学院大学社会学部附属研究所 相談・研究部門

2023年度第1回地域創り担い手学習会では、ひきこもりなど生きづらさのある当事者の場づくりをテーマに、林恭子さん、すみれさんをお招きし、話題を提供していただきました。学習会当日は123名にご参加いただきました。みなさま本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

◇ 開催概要

テーマ： ひきこもりなど生きづらさのある当事者の場づくりと地域社会

～当事者の視点から問うこれからの支援と地域社会の在りかた～

日時：2023年7月9日（日）13:00-15:30

場所：明治学院大学白金キャンパス 3201 教室

登壇者：

- シンポジスト
  - ・ 林恭子氏（ひきこもり UX 会議代表理事）
  - ・ すみれ氏（当事者会「からふらっと」サポーター）
- コーディネーター
  - ・ 関水徹平准教授（本研究所相談・研究部門所員）



トークセッションの様子

◇ 学習会概要

学習会では、まず、林恭子さんより居場所づくりをするうえでのエッセンスをご報告いただきました。続いて、すみれさんにはこれまでの経緯と、「からふらっと」での具体的な活動をお話いただきました。

その後、関水さんを交えて、トークセッション、質疑応答を行いました。参加者からは、ひきこもりは生きるための行為であり、居場所は「卒業」するところではないとのお話が、印象的だったという感想が多く寄せられました。学習会終了後は、希望者で交流会を「さん・サン」にて実施しました。グループトークを一回目は当事者、家族、支援者などの立場別、二回目は立場をシャッフルして行いました。

◇ まとめ（関水先生の逐語録）

アドボカシー、権利擁護という言葉がありますが、当事者活動には、セルフアドボカシーの側面とピアアドボカシーの側面があると思います。後者のピア（peer）とは「仲間」という意味であり、当事者活動は「仲間」である本人の声をまず聴くことを大切にします。支援者にとっては、本人の側に立ち続けることはしばしば難しい場合もあります。林さんやすみれさんも言及していましたが、支援者にはこのような当事者活動を支援することを通じて、当事者のセルフアドボカシーやピアアドボカシーの実践を支えていくことが求められているのではと思います。

アンケートのご協力ありがとうございました。  
今後の実践に活かして参ります。